

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 鶴真分教会

昭和32年11月26日 設立  
昭和32年12月9日 鎮座祭  
昭和32年12月10日 奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。  
つなげよう、信仰の喜びを。

活動  
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践  
項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



立教188年  
10月号

## 布教推進講習会 開催

9・21 祭典後

布教部

布教部(田中隆之部長)は、9月21日祭典講話に替え、笹倉雅浩先生(宇仁大教会部属兵庫中央分教会長)を招いて、布教推進講習会を開催。講話要旨は次の通り。

皆様、こんにちは。教会は神戸にございまして、歳は54歳、家族は前会長である父と、妻と子供が3人、また3人の住み込みさんと共に教会生活を送らせて頂いています。皆様のご期待に添えるようなお話になるか分かりませんが、精一杯勤めさせて頂きます。

## ▼恩師西村一郎先生との出会い

20年前、父から教会会長の後継を告げられた私は、その責任の重さを痛感し、教会の充実を目指す決意を固めました。そんな折、天浦分教会の布教師・西村順子先生の講話CDに出会い、先生の壮絶な布教・おたすけの経験と「教祖は御存命」「布教はおもしろい」といった言葉に深く感動。居ても立っても

もいられず、先生ご夫妻を訪ね、教会の進むべき道を相談しました。西村一郎先生から「パン屋がパンを売らなければ潰れる。教会も同じで、何をいかけ・おたすけをしなければ衰退する」と教えられ、教会の自分を再認識。以後、布教を常時活動と定め、自ら神戸駅で毎朝布教を実践。神名流し、路傍講演、教理拝読、てをどり、チラシ配りなど、約1時間半の活動を通じて、教会の使命を体現する日々を送るようになりました。

## ▼鈴木富美子先生との出会い

駅前布教を始めて3年が経ち、一区切りを考えていた頃、忘れられない出会いがありました。ある日、路傍講演中に70代ほどの女性が足を止めて話を聞いてくれ、「これを10年続けなさい。教会ひとつ作れるわよ」と励ましの言葉を残して去っていった。後日、雑誌『あらきとよりよう』でその女性が鈴木富美子先生であることを知り、彼女が13年の布教を経て日之寄分教会を設立した偉大な布教師であることに驚きました。この出会いは、教祖が「今こそ本番、ここでくじけるな」と励ましてくださったように感じ、駅前布教を

10年続ける決意を新たにしました。

## ▼現在の布教体制

神戸駅での布教を17年間続け、10年目頃から教会に変化が現れました。妻や住み込みの協力者も加わり、布教体制が整備されました。現在は朝8時に駅前布教を行い、9時半から教会家族でお願いづとめ後、目標を共有して布教に出発。夕づとめ後は「ねりあい」で一日を振り返り、最後に神名流しをして日課を終えています。

## ▼布教を通して得たもの

## いんねんの自覚

布教を通じて自分自身を深く知ることができました。西村先生の教えにより、布教は教祖との対話であり、出会う人々は自らの心や前生のいんねんを映す鏡であると実感しました。

## ▼鼻紙にされたリーフレット

神戸駅での布教中、ある男性がチラシを受け取った後、それで鼻をかみ足元に捨てて去っていききました。教祖の教えを綴った大切なチラシを侮辱されたことに強い怒りと悔しさを覚えましたが、ふと西村先生の教えを思い出し、

自分の心の高慢さに気づくことができました。布教を始めた頃は謙虚な心で歩いていたはずが、知らぬ間に「立派なことをしている」という驕りが生まれていたのです。チラシを粗末に扱ったのは他人ではなく、自分自身の心だったと深く反省しました。

## ▼住み込みさんをおくということ

布教が軌道に乗るにつれ、教会に住み込む人が増えましたが、彼らは仕事や人間関係に悩みを抱え、教会生活に馴染むまで時間がかかりました。特に住み込み同士の喧嘩が絶えず、仲裁に苦勞し、時には土下座で事態を収めることもありました。青年が飛び出していくたびに後を追ひ、なだめて連れ戻す日々疲れ果て、西村先生に相談すると、「それでこそ教会。教祖が鍛えて下さっている道中」と励まされ、「今しかできない苦勞を楽しんで通りなさい」との言葉に勇気を得ました。また、「辛い時こそ布教に歩き、御存命の教祖を感じなさい」との教えに、心の持ち方を改めるきっかけを頂きました。

## ▼教会が嫌だと言いだした子供たち

教会生活の中で最も気がかりだった





布教の意義と実動について  
多角的に話される笹倉先生

のは子供たちのことでした。ある日、息子が「家族だけで暮らしたい」と訴えたのは、日常的に目の前で起こる住み込み者同士の喧嘩や、親が振り回される姿に不安を感じていたからでした。父親として言葉を見つけれず悩む中、妻が子供たちに信仰の原点や教会の意味を根気強く語り、笑顔で支えてくれました。家事や育児に加え、住み込み者の世話まで担う妻の献身に深く感謝しています。そのお陰で子供たちは信仰を保ち、年祭活動にも励んでいます。一方、私は住み込み者との関わりを通じて、自分の未熟さや冷たさ、親不孝さを痛感し、布教を通して自ら

のいんねんと向き合う日々でした。祖父から笹倉家は三代で廃るいんねんと聞かされた言葉を思い出し、信仰の三代目としての自覚を持ち、真剣に道を通る決意を新たにしました。

#### ▼教祖年祭は「たすけの旬」「たすかりの旬」→中棹さんのおたすけ

現在は教祖140年祭に向かう「たすけの旬」「たすかりの旬」の時期であり、親神様・教祖の不思議なお働きを実感する絶好の機会です。その象徴的なおたすけの一つが、Nさんとの出会いと歩みでした。10年前、教祖130年祭活動中に偶然詰所で出会ったNさんは、父の勧めにもかかわらず別席を断り続けていましたが、私の粘り強い願いに心を動かされ、初席を運んでくださり、ようぼくとして信仰の道を歩み始めました。

その後、仕事の多忙さから教会との関わりが薄れ、7年が経過。コロナ感染を機に再び教会へ助けを求めてこられました。身寄りもなく、借金と生活困窮に苦しむNさんのため、教会は食糧支援や住居の片付けを行い、修養科を経て住み込みとして迎えました。そ

の後、大腸癌が見つかり手術を受けるも、親神様の御守護により回復。教会生活では布教やひのきしんに励み、月次祭でも役割を担うまでに成人されました。

しかし昨年11月、大教会の団参で突然足が動かなくなり、寝たきりの状態に。原因不明の苦しみの中、教会家族の温かい支えといたわりがNさんの心を癒し、再びおつとめやおさづけに励む日々が始まりました。一時は生涯寝たきりを覚悟したものの、今では食事やトイレも自力で行えるまでに回復し、教会の御用にも少しずつ復帰されています。

この10年の歩みを振り返ると、教祖がNさんの将来を見据え、私たちとの出会いを導いて下さったように思えます。信仰の意味も分からず、無償の奉仕に疑問を抱いていたNさんが、節を通して感謝の心を持ち、信仰の元一日を迎えられたことは大きな成人です。

さらに、Nさんの身の回りの世話を親身に担ってくれた住み込みさんたちの成長も見逃せません。かつて住み込

み者の対応に苦慮していた私に、西村先生が「右腕になるようぼくが生まれてくる」と励まして下さった言葉が、今まさに現実となり、私たち夫婦が住み込みさんに支えられる日々を送っています。

教祖年祭に向かう三年千日は、たすけとたすかりの旬であり、この時期に真剣ににをいがけ・おたすけに励むことで、親神様の不思議な御守護を頂けるだけでなく、10年20年先の教会の発展にもつながる尊い種蒔きの時期であると、心から実感しています。

#### ▼御存命の教祖を信じる信念

本講習会のテーマ「布教」において、最も重要な心構えは「御存命の教祖を信じる信念」であると語られています。教祖が今も生きてお働き下さっていると思えるからこそ、にをいがけやおさづけに真剣に取り組むことができるのです。しかし、教祖の姿や声を直接確認することはできず、科学的にも証明できない中で、どうすればその御存命を確信できるのか——その答えを示すような出来事が、私の息子の布教活動中に起こりました。

専修科2年生だった息子は、布教活動班で天理市前栽町を戸別訪問することになり、数ヶ月前の団参で親しくなった牟礼さんにおさづけを取り次ぐことを目標に定めました。一戸建てを中心に訪問を重ねるも牟礼さんの家は見つからず、最後の一軒となった米田さん宅に訪問。そこでおさづけを取り次ぐことになり、米田さんが友人を呼ぶと、それがなんと探し求めていた牟礼さんだったのです。しかも牟礼さんの住まいは、息子が布教を始めたすぐ目の前のアパートだったことが判明し、最後の一軒に辿り着いていなければ出会えなかった奇跡的な展開でした。

この出来事は偶然ではなく、教祖が息子の真実の心を受け取って導いて下さった証であり、「影は見えぬけど、働きの理が見えてある」というお言葉通り、教祖が常に傍で見守り、働いて下さっていることを実感させるものでした。この体験を通して、教祖の御存命を改めて確信し、世界だすけの道具衆として歩む者にとってかけがえのない宝を頂いたと感じています。

「教祖は布教に歩く者だけに下さるものがある」と言われるように、教祖の御存命をこの目で拝みたいと願うなら、にをいがけ・おたすけに歩くことが最も近道であり、教祖年祭の旬は、ようぼく一人ひとりが心に教祖の御存命を確立する絶好の機会であると思います。

#### ▼笹倉家の信仰の元一日について

笹倉家の信仰の原点は、初代・笹倉一郎祖父の身上にあります。90年前、原因不明の胃腸の病で全てを失い、絶望の中で鍛冶屋分教会初代・内藤栄治先生のにをいがけにより信仰に目覚め、おちばへ片道切符で向かいました。修養生活で命をたすけられた一郎は、恩返しと家のいんねん納消を願い、神戸で野宿から布教を開始。「神戸駅を見下ろす教会を建てる」との夢を抱き、20年の布教を経て昭和27年に兵庫中央分教会を設立しました。

#### ▼神名流しをする私への家族の声援

17年前から夕づとめ後に神名流しを始め、教会前の横断歩道で「よろづよ八首」を唱えると、教会の窓から妻と

幼い子供たちが「おとうさん、おかえりー!」と声援を送ってくれる光景が日課となりました。実はその場所こそ、初代・笹倉一郎が野宿布教をしていた地であり、孫である私が三代目として神名を流す姿に、初代の夢が現実となったことを深く感じました。初代は「三代で廃るいんねん」を自覚し、命懸けで信仰に飛び込み、教会を築いてくれました。今では長男もようぼくとなり、同じ場所で神名流しをしています。論達には、信仰は親から子、子から孫へと継がれる一步一步の積み重ねが末代へ続く道と記されており、私たちも教祖や先人のひながたに倣い、にをいがけ・おたすけに励み、次代のようぼくを丹精していく責任があると強く感じています。

#### ▼一言のにをいがけは、人の運命を変える

布教やにをいがけに対して「難しい」「自分には無理」と感じる方も多いですが、決して難しく考える必要はありません。三代真柱様は教祖百年祭の論達第三号で「一言のにをいがけは、人の運命を変える」と教えて下さり、私はこの言葉に何度も励まされてきまし

た。「ピンポン、こんにちは、陽気ぐらしの天理教です」——この一言からおたすけが始まるのです。

布教では断られることが多く、「興味ない」「二度と来るな」と怒鳴られることもあります。それは当たり前なこと。断られても丁寧挨拶し、次へ向かえばよいのです。私は神戸で戸別訪問をしています。留守の家でも「理残し」として教祖の思いを声に出して伝えるようにしています。意味がないように見えても、そこにおたすけの種が蒔かれていると信じています。

戸別訪問が難しい方は、ポステイングや神名流しでも構いません。大切なのは、どんなにをいがけでも「御存命の教祖のお供をする」という信念を持つことです。ポステイングでは祈りを込めてチラシを配り、神名流しでは教祖を先頭に歩く意識が重要です。実際、神名流し中に住民から「祈ってくれてありがとう」と感謝の言葉を頂いたこともあり、本教最初のにをいがけである神名流しが今も人々の心に響いていることを実感しました。

## ▼教会の教祖140年祭の取り組み

この道は「無から有を生み出す」道であり、親神様や教祖、先人たちは何もない中から信仰の礎を築かれました。その精神は今も、一軒の戸別訪問や一言の声掛け、一枚のパンフレットから始まります。たとえ今日が無でも、明日の一步が有を生むかもしれません。大切なのは諦めず、信じて種を蒔き続けることです。

## ▼教会の年祭活動

教祖140年祭に向け、私たちの教会では「10人の実動ようぼくの増加」と「10万件のにをいがけ・おたすけ」を目標に活動しています。私は毎朝駅前で100人以上に声を掛け、リーフレットを渡す布教を続けていますが、受け取って下さるのは数人程度で、目に見える成果は少ない状況です。そんな中、昨年4月に住み込み布教師がポスティングした1枚のリーフレットがきっかけで、今年2月に1人の熱心なようぼくが誕生しました。その方は毎月別席を運び、月次祭にも積極的に参加し、今では自身もリーフレットを使ってにをいがけに挑戦されています。まさに一枚のリーフレットから信仰の道に繋が

り、おたすけに実動するようぼくが生まれました。

## ▼締め括り

教祖140年祭が目前に迫る中、今回はおちばから具体的な活動方針が示されたわけではなく、論議に込められた意義に基づき、各教会が目標を定め、ようぼく一人ひとりが心の成人を目指して活動することが求められています。真柱様は「成人とは心の成人であり、教祖のひながたを目標に歩むこと」と述べられ、この年祭では「教祖のひながた」が特に強調されています。教祖は、理解されず相手にされない中でも、世界だすけの理づくりと種まきに徹し、最も苦心されたのは親神様の存在を伝える「にをいがけ」でした。私たちも布教に苦勞は伴いますが、断られることさえ教祖のひながたの一端であり、尊い道と受け止めるべきです。「ピンポン、こんにちば。陽気ぐらしの天理教です」と伝える一言のにをいがけこそ、誰もが辿れる

教祖のひながたであり、ご恩報じの心で歩むことが大切です。にをいが掛かるかどうかは神様の領分であり、私たちはただ親の思いを伝えることに専念すれば、教祖は必ず喜んで下さいます。ようぼくが歩けばその道に教祖の足跡が残る、住む町に「教祖の足跡がない道はない」と言えるほどに歩み続けたものです。特に9月は「にをいがけ

強調の月」であり、「全教会布教推進月間」として、全教会が布教拠点となり、月末には「全教一斉にをいがけデー」も開催されます。一人でも多くのようぼくが一手一つに布教に励み、親の思いを世界の人々に届けましょう。一言のにをいがけは人の運命だけでなく、私たち自身の運命も変えてくれるのです。

《以上要旨》



教祖140年祭

共に勇み立ち  
教祖の親心に  
お応えしよう



ようぼく  
一斉活動日

第5回  
立教188年(2025年)  
**11/1** ±  
**11/2** 日

※会場によってどちらかの開催日となります

会場ごとに開催日・開催時刻が異なりますので、「教区・支部情報わっと」から該当支部の情報をご確認ください。



**委員長後継者講習会**  
**開催 9・23 大教会**  
**婦人会**



真柱様のメッセージを読み聞かせる  
上原愛美支部長

婦人会笠岡支部(上原愛美支部長)は、9月23日支部長交代後初めてとなる「委員長後継者講習会」を開催しました。受講者は11人でした。

支部長様のお話では、今は日々心づくりをさせてもらう中で、伏せ込み・徳積み・理作りの旬であることをお話しくださり、また『With you』55号(2P)に掲載されている、真柱様のメッセージを読んで聞かせてくださいました。そして、教祖140年祭まであと4ヶ月、年祭の旬に少しでも成人し



感話(直轄/上原美可さん)



感話(木津和委員部/丸山 彩さん)

た姿を教祖にご覧いただけるよう歩ませていただきますように、お話を終えられました。

その後、2人の感話を聞かせていた



昼食のバイキング



ゲームでくつろぐ参加者

できました。

木津和委員部の丸山彩さんは、教会の神殿普請のお話をされ、普請が進む中、先人の思いや教会へと運んでくだ



大教会長様も手伝われた託児



2班に分かれてのサイコロトーク

さった真実の御供えによって、今の教会があることを知り、自身も年祭に向けて心定めをされ、実行し続けていく中に、喜びや楽しみが増えてきたこと



を話されました。また直轄の上原美可さんは、わが子を通して身近な方のおたすけ、人に寄り添うおたすけの素晴らしさをお話してくださいました。

次に、リフレッシュタイムでは全員でゲームをし、昼食は賑やかにバイキングを頂き、午後からは2班に分かれて「サイコロトーク」をおこないました。サイコロの目で決められたテーマに沿って話をする中、話が盛り上がり、親睦を深める楽しい時間となりました。

世話取りに当たった委員長さん達の、心のこもった昼食で会話も弾み、21人の託児にはお父さん方のお手伝いもあり、受講者も落ち着いた環境の中で受講する事ができました。

(常任委員 田中つかさ)

## 障子張り替え

### ひのきしん 実施

管理部

管理部(虫明立生部長)は10月3日(金)午前9時から大教会長様を初め、

笠岡に繋がる人たちで5年ぶりに神殿並びに2階建物内の障子張り替えひのきしんを実施、約50人余りが参加した。婦人会では毎月3日が例会日であり、この日に合わせて支部長を中心に障子洗いひのきしんを行った。

午前8時半から水洗いのホースや洗った障子を敷くブルーシートなどの準備を整え、順次来た人からそれぞれの持場で作業が進められた。男性は神殿内の番号の付けられた障子を取り外しては北側廊下に集積して行き、婦人会が水で洗った障子紙を剥がしては正面玄関前で仕上げていった。

同様に神事所、放送室、仕込み室・



障子洗いチームの婦人会

控室、当番室、事務室、会議室、神饌場、客殿一部も同じ作業を繰り返している、昼食後に障子洗いひのきしんを終えた婦人会はそれぞれに解散した。

午後からは有志の人たちで手を休める事なく障子紙を張り続け午後5時頃にはほぼ終了する事が出来た。来年1月26日、教祖140年祭を新しく張り替えられた真つ白な障子で迎えられる事に参加者たちはそれぞれに年祭への思いを心新たににした。

久しぶりの障子張り替えひのきしんを大勢の方々にお力添え頂き誠にありがとうございました。

(部長 虫明立生)



手分けして障子張り



張り上がった障子を慎重に戻す



紙切りチームは慎重派に任せる

## 九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には子どもかわいい一条の親心のまにまに 日夜変わらず御守護下されているばかりでなく 身上事情を通して陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に親心に近づく思案を重ねつつ たすけ一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は九月の月次祭を執り行う定めの日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭に向けて締めくくりの年も残すところあと三か月となりました 今月は全教会布教推進月間と定めて頂いておりますので 教会毎に計画を立て 締めくくりの年に相応しい活動となるよう励ませて頂いております

また本日は笹倉雅浩先生をお迎えして布教推進講習会を開催致します 先生のお話をしっかりと胸に納め より一層勇んでをいがけおたすけに 更に月末の全教一斉にをいがけデーに臨ませて頂く所存でございます

何卒親神様には 世界一れつたすけたいとの親心にお応えするべく たすけ一条に邁進する皆の誠実の心をお受取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代會長上原繁雄大人くにる刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 また新たににお鎮まり下さいました杉原博之大人 藤井サトコ刀自 山成友司大人 岡崎悦子刀自 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

祖霊様方には 身上事情を通して早くからこの道に引き寄せられ 親神様教祖の御心とお働きを知り 我が身我が家のいんねんを悟つて ご恩報じの上からたすけ一条の道を生涯懸けて通られました 今日のお道が結構な姿をお見せ頂いておりますのは親神様教祖のご守護お導きの賜物である事は申すまでもありませんが また一つには祖霊様方の真実の伏せ込み理作りのお陰と 日々は朝夕にお礼申し上げますと共に 祖霊様方にもお喜び頂きたいと 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも本日は 秋の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人一同 親神様の御前にてをどりをつとめさせて頂きました 続いて祖霊様方の御前に座を移し 在りし目を偲び 御遺徳を称え お礼申し上げます 皆の真実の状をご覧下さいまして 祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百四十年祭に向けての年祭活動締めくくりの年も残すところ三か月余りとなりました 私達はそれぞれに定めた心定め の完遂を目指して 日々成人の歩みを進めさせて頂いております

何卒祖霊様方には 目まぐるしく移行行くこの時代においても 親孝心一筋に たすけ一条に邁進する皆の真実の状をご覧下さいまして 教祖百四十年祭への年祭活動期間を喜びいっぱいの嬉しい心で通り切れますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます



立教百八十八年 九月月次祭 祭典役割表

| 講話      |  | 祭主   |      | 扈者   |   | 役割<br>区分 | 地方   |      |      | てをとり<br>おつとめ |      |      |       |     | 笛  | ちゃんぽん | 拍子木 | 太鼓 | すりがね | 小鼓 | 琴  | 三味線 | 胡弓 | 控え |
|---------|--|------|------|------|---|----------|------|------|------|--------------|------|------|-------|-----|----|-------|-----|----|------|----|----|-----|----|----|
| 十一月講話   |  | 賛者   |      | 指図方  |   |          | 岡崎真一 | 山田敏教 | 岡崎治喜 | 大教会長様        | 前会長様 | 上原繁道 | 大教会奥様 | 前奥様 |    |       |     |    |      |    |    |     |    |    |
| 海外伝道講習会 |  | 内海史郎 | 杉原善朗 | 上原繁道 | 前 | 後半       |      |      |      |              |      |      |       |     | 後半 | 後半    | 後半  | 後半 | 後半   | 後半 | 後半 | 後半  | 後半 | 後半 |
| 海外伝道講習会 |  | 内海史郎 | 杉原善朗 | 上原繁道 | 前 | 後半       | 後半   | 後半   | 後半   | 後半           | 後半   | 後半   | 後半    | 後半  | 後半 | 後半    | 後半  | 後半 | 後半   | 後半 | 後半 | 後半  | 後半 | 後半 |

立教百八十八年 秋季霊祭 祭典役割表

| 役割 / 区分   |          |         |         |         |         |         |           |           |                    |       |           |         |         |           |         |         | 扈 者       |         | 祭 主     |           |
|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|--------------------|-------|-----------|---------|---------|-----------|---------|---------|-----------|---------|---------|-----------|
| 地 方       |          |         |         |         |         |         |           |           |                    |       |           |         |         |           |         |         | 前 半       |         | 後 半     |           |
| 胡 弓       | 三 味 線    | 琴       | 小 鼓     | す り が ね | 太 鼓     | 拍 子 木   | ち ゃ ん ぽ ん | 笛         | て を ど り<br>お つ と め |       |           |         |         | 大 教 会 長 様 |         |         | 大 教 会 長 様 |         |         |           |
| 岡 崎 豊 子   | 吉 岡 八 恵  | 上 原 順 子 | 浅 野 明 教 | 田 林 久 嗣 | 今 川 昌 彦 | 中 島 誠 治 | 杉 原 善 朗   | 吉 岡 誠 一 郎 | 門 脇 加 津            | 前 奥 様 | 大 教 会 奥 様 | 門 脇 元 教 | 前 会 長 様 | 大 教 会 長 様 | 上 原 繁 次 | 上 原 浩 浩 | 田 中 隆 之   | 森 本 忠 善 | 岡 崎 真 一 | 大 教 会 長 様 |
| 上 原 千 枝 子 | 田 中 つか さ | 稲 月 稔 恵 | 余 村 元   | 掛 谷 善 成 | 三 代 信 行 | 藤 井 保 人 | 三 代 拓 己   | 猪 原 啓 介   | 山 野 な つ            | 室 悦 子 | 武 内 正 美   | 藤 本 晴 司 | 下 田 誠 輝 | 北 川 治 史   | 本 多 正 悟 | 友 井 正 人 | 渡 邊 泰 造   |         |         |           |

📌

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、**2 日前までには、必ず**  
[詰所](#)へご連絡ください。

・**食事をしない（宿泊のみの）場合**でも、2 日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

| 指 図 方   |         | 賛 者     |  |
|---------|---------|---------|--|
| 上 原 志 郎 | 中 村 剛 史 | 佐 藤 真 孝 |  |

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、**2日前までには、必ず**詰所へご連絡ください。
- 食事をしない(宿泊のみの)場合**でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

# 大教会だより

◎立教188年秋季大祭参拝

(\*印は11月)

|      |      |    |       |    |       |    |       |    |       |    |      |    |       |    |       |    |        |    |       |    |       |    |       |      |        |    |       |    |       |      |       |    |       |    |       |    |       |     |       |     |       |    |       |     |        |
|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|------|--------|----|-------|----|-------|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|-----|--------|
| 笠岡講社 | 前会長様 | 福山 | 大教会長様 | 高屋 | 岡崎真一様 | 神邊 | 大教会長様 | 島根 | 上原繁道様 | 久松 | 前会長様 | 鶴山 | 岡崎真一様 | 弥高 | 今川昌彦様 | 陽備 | 田中隆之彦様 | 摩耶 | 今川昌彦様 | 金浦 | 中島誠治様 | 興明 | 上原志郎様 | ひろさと | 田中隆之彦様 | 陶山 | 大教会長様 | 芳井 | 大教会長様 | 海松ヶ岡 | 今川昌彦様 | 東悠 | 上原繁道様 | 吸江 | 上原繁道様 | 照陽 | 武内正美様 | 輝美濃 | 上原繁道様 | 新山邑 | 大教会長様 | 皆部 | 大教会長様 | 明石市 | *上原志郎様 |
|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|------|--------|----|-------|----|-------|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|-----|--------|

|        |         |        |         |         |         |        |        |        |        |         |        |        |
|--------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 上下岡崎真一 | 府中市武内正美 | 東城上原志郎 | 服部大教会長様 | 島中大教会長様 | 驛家大教会長様 | 葦陽田中隆之 | 湯田中島誠治 | 備中門脇元教 | 神昭門脇元教 | 美之郷中島誠治 | 錦備上原繁道 | 神免門脇元教 |
|--------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|



インドの民話に『ひび割れのつぼ』という次の様なお話があります。

インドのある水運び人は、2つのつぼを持っていました。でも、片方のつぼには、ひび割れがあったので、いつも水が半分こぼれていました。もう片方のつぼは完璧で、自分は役目を十分果たしていると満足していました。ひび割れのつぼは、自分のひび割れを情

けなく思っていました。ある時、ひび割れのつぼは、とうとう水運び人に言いました。

「私にはひび割れがあつて毎日水が半分こぼれ、あなたの役に半分しかたつていない。それがとても辛いんです。」

それを聞いて水運び人は、ひび割れつぼに優しく言いました。

「今度歩く時に、道端の花をよく見てごらん。」

そう言われて、次の日、ひび割れつぼは、毎日通る道に美しい花が咲いていることに気付きました。美しい花を見て、少し元氣になりましたが、ご主人の家に着いた時には、やはり水は半分しか残っていませんでした。

「やはり私は役に立たないつぼだ。ごめんなさい。」

すると水運び人はこう言ったのです。

「気付かなかったかい。道端の花は君の側にしか咲いていなかっただろう。僕は君のひび割れを知ってから、君の通る道に花の種をまいておいたんだ。毎日そこを通るたびに、君は種に水をやり、花を育ててきたんだよ。僕は毎日その花を摘み、ご主人の食卓に

飾ってきた。君のおかげでご主人は、きれいな花を眺めながら食事を楽しむことができるんだよ。」

私はこのお話を読んで、2つのつぼは、人を喜ばせる役割を果たした事から、どんな個性をもつていても、活かし方ひとつで人や自分を喜ばせる事ができるのだと感じました。また2つのつぼの良いところを引き出した水運び人が素晴らしいと感じます。私たちお互いは、それぞれ癖や性格が違い、得手不得手も異なります。時にそれが悩みの種になることもありますがお互いを活かし合い、補い合う心が大切だと思います。また自分で短所だと思っている点も、活かし方一つで人のために役割を果たす事ができます。みんなが人の為に自分の個性を活かせる事ができれば、喜びを多く感じる事ができるかもしれません。

教祖140年祭まであとわずか。我々道の子が、たすけあいながら陽気に歩む姿を、教祖はお喜びになられる事だと思えます。人の良い所を引き出し、一手一つに通らせて頂きたいものです。

(う)





# 秋学

## 11月30日

集合時間 8:30

集合時間 天理教笠岡大教会

持参物 傘

参加費 2700円

参加対象 中学2年生以上

締切 11月10日

※小遣いは任意です

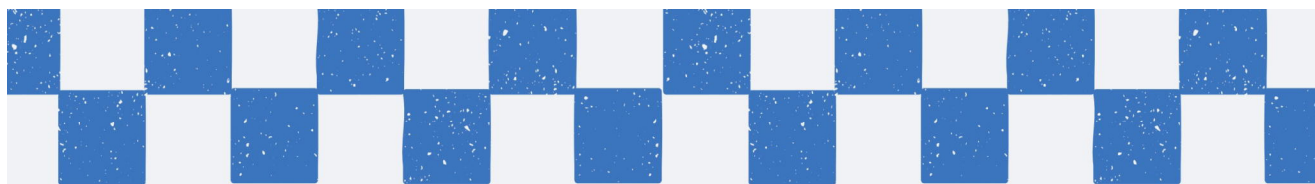
解散予定 17時ごろ

内容 八天堂でクリームパン作り体験  
ネイチャーツアーなど

行き先 広島県立中央森林公園(広島県三原市)  
など

参加申し込み 上原繁次または藤井成人まで

---



# 2025若人の集い

スキルを学び人のために  
12月7日(日) 笠岡大教会

時間：9時受付開始・9時30分開講  
14時解散予定

参加対象：20代～40代までの男女  
参加費：500円

内容：講師による基調講演とコース毎の実践授業

申込方法：下記QRコードのフォームを使用

申込締切：11月15日まで

※申込時に希望コース(第1. 第2)を選択して下さい

※託児の必要な方は、フォームで必要事項を回答して下さい

●基調講演講師：福岡毅先生(万国分教会長)

特技の音楽を通して、教会や地域での活動を展開。



●海外コース

韓国を中心に、海外  
伝道の広がりや、  
文化などを学ぶ



●リラクゼーション  
コース

簡単なマッサージの  
方法を学ぶ



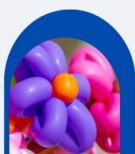
●教理コース

天理教の教えを  
分かりやすく人に  
伝える方法を学ぶ



●戸別訪問  
コース

布教の実践し、  
その心得を学ぶ



●アートバルーン  
コース

アートバルーンで  
創作を学ぶ



●聴き方コース

対話を通じた対人  
支援を学ぶ

申込QRコードはこちら→

主催：笠岡大教会年祭準備委員会

